

日本民家園 花便り3月号(2)

～暮らしと植物～



シュンラン 春蘭 佐地家ほか
北日本の山菜リストにシュンランの名前があります。香りの高い花は塩漬けにして湯を注ぎ、桜茶と同じように蘭茶も楽しむことができるそうです。



タチツボスミレ 立坪堇 佐々木家ほか
春を告げる野草の代表格のスミレ。日本には約55種が自生し、万葉集のなかでも詠まれています。山菜や紙漉きのネリ剤としても用いられたことがありました。江戸時代には既に栽培されていましたが、品種改良には至りませんでした。



ヨゴレネコノメ 汚猫目 三澤家
ネコノメソウ属は世界に60種ほどあり、そのうち10種は日本固有です。欧州やチベットでは山菜や薬草として利用されましたが、日本ではそのような記録は見当たりません。



ヒュウガミズキ 日向水木 作田家
近畿地方の日本海側の蛇紋岩など痩せ地に自生するヒュウガミズキは、ミズキ科ではなくマンサク科(写真右下マンサク)、トサミズキより一回り小さく、江戸時代から庭木や切り花として利用され親しまれてきました。



フクジュソウ 福寿草 清宮家
3月になり雪が消えると、フクジュソウやキクザキイチゲなど春一番の草花が咲き始めます。それを目安に新潟や佐渡地方では、たきぎ取りや麦踏みなどの仕事を始めたそうです